

第1回長野市おひざで絵本事業絵本選定委員会 会議要旨

- 【日 時】 令和元年8月23日（金） 午後2時～4時
- 【場 所】 市役所第一庁舎4階 教育委員会室
- 【出席者】 委 員 佐々木委員長 本田委員長代理 稲富委員 長橋委員
柳沢委員 山崎委員
事務局 竹内教育次長 長澤家庭・地域学びの課長
北原家庭・地域学びの課主幹兼課長補佐
宮崎家庭・地域学びの課係長 西村家庭・地域学びの課主事

【主な内容】

- 1 開会
- 2 教育次長あいさつ
- 3 委員長あいさつ

- 4 協議事項
 - (1) おひざで絵本事業実施状況について
～事務局より説明～

(委 員) 事業実績であるが、犀南保健センターでは対象者に対して配布数が多い。
これはどのような理由か。

(事 務 局) 原則、健康教室は居住地の管轄保健センターへ参加することとなっているため、(保健センターごとの) 対象者数はその管轄区域内に住所がある7～8か月児の人数を表している。しかし、対象の日程に体調を崩してしまったという場合などには、対象でない日程や保健センターの健康教室に参加することも可能である。犀南保健センターは、他の保健センターの管轄地域からも参加が多くあり、対象者数よりも参加者が多くなったと考えられる。

(委 員) (絵本別の配付冊数について)「じゃあじゃあびりびり」と「どうぶつのおやこ」は約2倍の差があると説明があった。このような結果になった理由についての考察はあるか。

(事 務 局) 「どうぶつのおやこ」については、文字が無い絵本であるため保護者によっては戸惑う方もいるのではないかと、という議論が過去の選定委員会でもあった。そういったところで配布冊数が伸び悩んだのではないかと考えている。「じゃあじゃあびりびり」については市役所窓口で絵本を受け取られる方の様子を見てみると、赤ちゃんが自分で手に持つことができるサイズであることや、どのページからでも読めるといった部分で選ばれる保護者が多いと感じ

じている。

- (委員) 実際に保健センターで読み聞かせを行っているが、読み手によって絵本ごとの（読み聞かせの）力の入れ方が異なる場合がある。どの本も平均して読むように心がけているが、（読み手側の）「この本がいいですよ」という本はお母さん方も選びやすい傾向はある。
- (委員) （「どうぶつのおやこ」について）多くは無いが、「字の無い絵本はどのように読めばいいのか」という質問はされたことがある。読み聞かせボランティアの皆さんの中には（読み聞かせ方に）迷われる方や訴求力が弱い方もいるのではないかと推測する。
- (委員) 最初（「どうぶつのおやこ」が贈呈絵本として選定されたとき）は（読み聞かせ方に）迷った。しかし、この絵本はお父さんが読む場合とお母さんが読む場合で異なる視点で楽しむことができるので、お父さんにも（読み聞かせに）大いに参加していただける良い本なのではないかと考えている。
- (委員長) 「どうぶつのおやこ」は初めて贈呈絵本に選定される際にも様々な意見があったが、現状は今のようなものだということである。
- (委員) お母さん達は（絵本を）選ぶにあたって迷うものか。例えば、担当に「どの絵本がよいと思うか」ということを読み聞かせの担当者に尋ねるか。
- (委員) そういったことはない。
- (委員) では、自分がすでに持っている絵本などを鑑みて選ぶなど、相談するというよりはご自分でお選びになる場合が多いということか。
- (委員) そうである。読み聞かせの時間に栄養相談を受けており、後から絵本について説明をすることはある。また、あらかじめ自分でどの本が良いかを考えており、読み聞かせを聞いて1冊に決められる方もいる。
- (委員) （健康教室の読み聞かせの時間には）5冊全部読むのか。
- (委員) 5冊全部を読み聞かせしている。
- (委員) （健康教室の）主たる目的は保健指導であるため、時間が無いから今日は（読み聞かせ）を短めにせざるを得ないこともある。読み聞かせを行う側からすれば、きちんと時間を確保して欲しいという思いがあり、そういった意見が読み聞かせボランティアの集まりで出ることはあった。

(2) 絵本の選定について

～事務局より説明～

- (委員長) 絵本の価格は事務局説明にあったとおり、（絵本間で大きな価格差が生じることは好ましくないという理由で）900円程度までの絵本をお選びいただくということをお願いしたい。本題に入る前に事務局からの説明に質問意見はあるか。

(意見なし)

- (委員長) 現在贈呈されている5冊の絵本を「変えた方がよいか」「現状でよいか」ということについてご意見を頂戴したい。
- (委員) イギリスのブックスタートの創始者であるウェンディ・クーリングさんのブックレットを読んだが、私たちの意志で赤ちゃんたちが初めて出会う本を選ぶということはかなりの責任を感じる。(贈呈絵本を) 変えないとしても、その本が次の世代にも伝えるべき絵本なのか検証をしないと、自信が無い中で推薦していくのは荷が重い。先程お話があった「どうぶつのおやこ」の文字が無いということに母たちがなぜ抵抗を感じているのかを検討しないと、文字が無い絵本は赤ちゃんにとって良くないということになってしまうのも非常に悲しいと感じている。
- (おひぎで絵本事業が) 9年前から始まってから、時代が変化してきている。また、外国籍のお子さんなど様々なお子さんがいる中で、全ての長野市の子ども達に合っているのかどうか検討をしていかないと、これからの時代を生きていく子ども達に大人がついて行けていないということになりかねない。現在の贈呈絵本を選んだ理由を皆で共有できたらありがたいと考えている。
- (委員) 保育園の様子から申し上げますと、現在の贈呈絵本5冊はすべて子ども達がとても良い反応を見せ、いつまでも喜んで見る絵本である。「いないいないばあ」はあまりにも良い本のため外せなかったため、家にこの本があるという家庭も増えてきたということは考えられる。「がたんごとんがたんごとん」は0～1歳のお子さんはいつ読んでも喜ぶ。「くだもの」は「さあどうぞ」と「あんと」の受け渡しのやりとりを何回もやって楽しんでいる。「じゃあじゃあびりびり」は(コンパクトのサイズで) いつでもどこでも持っていけるという利点もあるし、音を楽しめるという(良い)点もある。「どうぶつのおやこ」はマンガチックではない、藪内さんの本物の絵がとても良いのだと思う。ただ、保育園でも職員によっては文字の無い絵本を読むときには力量がいる。最近のお母さんたちはスマホに慣れているためか、自分から一生懸命言葉がけをすることは少し足りないのではないかという気がする。子どもが反応すればそこで初めて何か言うのだが、お母さんたちの方から言葉をシャワーのように浴びせかけるところでは難しいのではないかと感じている。
- (委員) 「どうぶつのおやこ」は大いに多様に適応する本だと思う。言葉が書いていないということは万国に通じる本だと言えると感じる。
- (委員) 赤ちゃんの絵本の大切な点は大人と子どもが読み合うということ。一方的に聴かせるものではない。ただそれがどの親もできるというのではなく、戸惑ってしまう人もいます。スマホ時代にはこのような本を定着させ、読みあ

いをしてもらいたいお薦めの絵本であるが、それは観念的で、実際にはそうはいかない。

(委員) 「どうぶつのおやこ」を) お母さんたちに紹介するときに、まず赤ちゃん(動物)の目線だけ見ていってください、次にお母さん(動物)の目線だけ見ていってくださいとやると、どの動物の親子も目線が合っているというのが分かる。それが分かるとお母さん方も進んで絵本を見てくださる。ちょっとした驚きが無いと人は興味を持たないものかなということは感じた。文字が無くてもこの本は入れてほしいと思う。

スマホ時代にお母さんたちの(子どもへの)声かけが難しくなっていると、敢えて歌いながら読むわらべうたの絵本を入れてもいいのかなと思う。

(委員) 先程の意見のように、私達が5冊を選ばなければならないというのは大きな責任ということもよく分かるが、(このおひぎで絵本事業は)ある意味、先程説明の中にあつた「きっかけになればいい」という意味合いも大きいと思う。(贈呈絵本は)どれも良い本であるし、お薦め絵本リストの中にも良い本が揃っている。これだけ本が沢山あつて、お母さんたちが選ぶのに困る中で、こういうふうにご贈呈絵本やお薦め絵本リストを作る中で、これまで絵本に触れていなかった人たちが「こんな素敵な本があるのだな」ということを分かってもらえたら良い。そのようなことを考えると、長く同じ絵本でやっていくのも良いのだが、(新しい絵本を入れることで)上の子のときは無かつたから、この(新しい)本をもらってみようかなという人も出てくると思う。沢山の絵本を紹介するのもこの役割の一つではないかと思う。1冊ぐらいは変えてもいいのではないか。

(委員) どの絵本も良いが、配付絵本を見ると、「じゃあじゃあびりびり」は平成27年12月～平成29年11月は贈呈絵本から外れていたが、(H29年12月に)もう一度復活している。良い絵本は、兄弟関係で持っている人が増えたなど思ったら一回辞め、様子を見て復活もありなのではないか。それを考えると「がたんごとんがたんごとん」はずっと贈呈絵本に入っているの、これを抜いて他のものを入れるということも考えられると思う。

(委員) 「いないいないばあ」もずっと入っている。園で「どんな絵本を読みますか」と保護者に尋ねると、「いないいないばあ」はお誕生のお祝いにもらったりするようで、知っている方が多い。お家で持っている方が多いので(配付冊数の)順位も4番目なのかなと思う。

(委員) 「いないいないばあ」この選定委員会でも良い本すぎて外せなかつたくらいなので、色々なご家庭で購入したり贈られたりしているのかもしれない。

(委員) 本屋さんでも赤ちゃんが生まれたときのお薦めの絵本として「いないいな

いばあ」は必ず紹介されるようだ。良い本だけれども敢えて外しても良いのではないかとも思う。

(委員) 例えば、「がたんごとんがたんごとん」「じゃあじゃあびりびり」は音を楽しむ絵本である。このうちの一冊を変えるのであれば音やリズムを楽しめる絵本を入れ、「いないいないばあ」を変えるのであれば、一緒に遊べるものを入れたらどうかと思う。

(委員長) 変えないという意見は無いので、変える冊数は別として、(贈呈絵本を)変えるという方向でよいか。

(一同賛成)

(委員長) それでは、具体的にどの本が、という意見も出てきているが、5冊のうちで今回変えた方が良いという意見がある委員は続けてご意見を頂戴したい。

(委員) 例えば、「がたんごとんがたんごとん」に変えて「ぼんちんぱん」はどうか。

★「ぼんちんぱん」(文・写真：柿木原政広 福音館書店)

(委員) (「ぼんちんぱん」について) 確かに、3歳児くらいは大変喜ぶが、0歳の赤ちゃんが見た時にはどうか、ブックスタートに贈る本としてはどうかとを感じる。読み聞かせの経験から、実際に0歳児の赤ちゃんが反応しているのはあまり経験が無い。3歳児にはばっちり(反応する)。

(委員) そうすると、わらべうた(の絵本を入れるのが良いの)ではないか。

(委員) わらべうたは「いないいないばあ」と変えられると良いのではないかなと思う。

(委員) わらべうたの絵本であればお薦め絵本リストに「ととけっこうよがあけた」がある。

★「ととけっこうよがあけた」(案：こばやしえみこ 絵：ましませつこ こだま社)

(委員) 「ととけっこうよがあけた」は、意外とお母さん方に声に出してもらえない。(読み聞かせをする際に)お母さんが声を出すと抱っこした赤ちゃんに胸から声が響くので、お母さんもどうぞ一緒に、と促すのだが、「ととけっこうよがあけた」は節があるせいか、お母さん方が恥ずかしくて声が出せないようだ。それよりも「せんべせんべやけた」の唱え歌の方が一緒に声に出してくれる。また、お母さん方が喜ぶのが「ちびすけどっこい」である。御岳海の活躍も影響しているのかもしれないが、膝の上で赤ちゃんをゆすったりくすぐったりしてあげると赤ちゃんが大変喜ぶ。それを見たお母さんが喜んでまた口ずさむ。

★「せんべせんべやけた」(案：こばやしえみこ 絵：ましませつこ こだま社)

★「ちびすけどっこい」(案：こばやしえみこ 絵：ましませつこ こぐま社)

「ととけっこうよがあけた」はおはようのご挨拶の絵本で、ブックスタートに贈るにはとても良いと思うが、お母さんが声の中々出せず照れてしまう。大勢の中だから声に出せないのであり、お家で対一ならまた違うのかもしれないが、この絵本は「どうぶつのおやこ」に匹敵するくらいハードルが高い絵本なのかもしれないと感じている。その点、「せんべせんべやけた」はお母さんが自分でやった記憶があり、「ちびすけどっこい」は親子で体を動かし参加できるので、親子の教室で人気がある。

(委員) わらべうた絵本が(贈呈絵本に)入り、保健センターで(読み聞かせボランティアが)プレゼンテーションをするとき、楽しいところを見せてあげないと、20代~30代前半のお母さん達は(家庭での読み聞かせに)躊躇してしまうのではないかなと思う。

(委員) 子育て支援センターでわらべうたの時間を取らせてもらっているが、10年前はほとんど反応がなかった。しかしここ5年、特に東日本大震災の後から、わらべうたを歌うことによって隣の知らない方とも手を繋げたり、輪が取れることをお母さん達が実感してくださっているような気がする。わざわざその時間に支援センターに足を運んでくださる方が増えてきて非常に嬉しい限りである。児童センターでは、わらべ歌の本を置いておくと子ども達が本を手にとってわらべうたで遊び始める。子ども達が声を揃えて歌い出すと他の子ども達も歌い始め、そのような姿に職員も心が安らぐ。歌というのは記憶として残っているもので、年齢を超えた繋がりや信頼関係が持てるものだと感じる。

(委員) 先程「いないいないばあ」が話題に出たが、この本はブックスタートの象徴のような本である。どこのブックスタートでも8割方入っている。それをあえて長野市がわざわざ外す根拠は何か。

(委員) (保健センターで読み聞かせをするとき)最初にどれを読むかと言えば「いないいないばあ」である。先程の話にあったようにお祝いで贈られたりもするため、配付冊数として数字には出てこないが、どうしても残したい絵本である。泣いているお子さんもこれを読むと泣き止んでニコニコしてくれる、お助けの本でもある。

(委員) よく考えてみると自身も「いないいないばあ」は2冊買った。1冊はボロボロになってしまった。それを考えると上の子も下の子もそれぞれが自分の「いないいないばあ」を持っていても良い。

(委員) 「じゃあじゃあびりびり」と「がたんごとんがたんごとん」について、繰り返しの言葉は赤ちゃんの耳によく入るので、2冊あっても良いと思ったが、

違う分野の絵本ということだったら、「じゃあじゃあびりびり」は復活したばかりなので、「がたんごとんがたんごとん」を贈呈絵本から外し、「ととけっこうよがあけた」を入れるのはどうか。

- (委員) 「がたんごとんがたんごとん」は男の子に人気がある。
- (委員) 機関車の表情など、少し大きめのお子さんになると細かいところまでよく見ている。同じ「がたんごとん」のフレーズも少しずつ変えて読み聞かせをする。
- (委員) 「ぼんちんぱん」は0歳児ではあんまり、というお話があったが、園での様子を見ると7～8か月から読み聞かせをして1歳で十分楽しんでいる。7～8か月の頃から馴染んで、1歳で楽しめる、さらに3歳くらいまで楽しめるという利点もあるのかなと思う。
- (委員) 「ととけっこうよがあけた」は歌にしないで言葉のリズムを楽しんで読んでいるお母さんも多い。「ぼんちんぱん」も0～1歳児の部屋に置いてあるが、「ぱん、ぱん」と言って指さして読み聞かせをせがむ子ども達が多い。
- (委員) 先程紹介があったわらべうたの絵本も音程が無くてもリズムに乗って読める絵本である。お母さん達も抵抗無く読めるのではないか。
- (委員) 「ちびすけどっこい」はお子さんの名前を入れて読んであげることができるのでコミュニケーションにつながるという利点がある。
- (委員) 「いないいないばあ」も最後の部分は自分のお子さんの名前に変えて読み聞かせをするよう（保護者へ）お伝えしている。
- (委員) 「いないいないばあ」は3か月くらいの赤ちゃんでも反応して見る。
自身も出産祝いに「いないいないばあ」と「がたんごとんがたんごとん」を2冊セットでプレゼントしている。この本は絶対に外さないと思う絵本である。「がたんごとんがたんごとん」は海外の子ども達も楽しめたという話を聞き、日本が誇る赤ちゃんの絵本であると感じた。
- (委員) 皆さんの話を聞いていると、(配付数の) データは参考であって、これで判断する根拠にしない方がよいという点もあると思う。配布数が多い、少ないで一喜一憂することは無い。生まれてくる赤ちゃんは1から始まるわけだから、新刊も古典も無い。
- (委員長) (現在の贈呈絵本) 5冊の中でこの絵本は外すことができないという絵本に挙手をお願いしたい。一人何回挙手してもよい。
- ・「いないいないばあ」…5人
 - ・「がたんごとんがたんごとん」…3人
 - ・「くだもの」…3人
 - ・「じゃあじゃあびりびり」…2人
 - ・「どうぶつのおやこ」…4人

- (委員長) では、ここで委員各々の推薦絵本を紹介していただきたい。その後、事務局からも紹介をしていただきたい。
- (委員) ★「そらまめくんとおまめのなかま」(著：なかやみわ 小学館)
平成31年3月に出た新しい絵本。色々なお豆が出てきて(ページを)開ける度に面白みがある。
- ★「いっこさんこ」(作：及川賢治、竹内繭子 文溪堂)
平成29年に出た絵本。色が良い。「いっこ」と「さんこ」の繰り返しの本。
- (委員) ★「だるまさんが」(作：かがくいひろし ブロンズ新社)
子ども達の様子を見ていると「ぷっ」や「しゅっ」への一言への反応が良い本。
- ★「ぴょーん」(作・絵：まつおかたつひで ポプラ社)
2歳以上に薦められてはいるが、「ぴょーん」とやるたびに0歳児は手を挙げて喜ぶ。
- ★「ととけっこうよがあけた」
- ★「ちびすけどっこい」
- ★「いろいろおせわになりました」(作：柳生弦一郎 福音館書店)
大きくなっても楽しんでいる絵本。繰り返しのフレーズが遊びの中にぽろっと出てきたりする。
- (委員) 「じゃああじゃあびりびり」は(現在の贈呈絵本の中で)一番人気があるが、最近の水道も(この本の絵とは)変わってしまった。
- ★「ぼんちんぱん」(文・写真：柿木原政広 福音館書店)
- ★「もいもい」(絵：市原淳 監修：開一夫 ディスカヴァー・トゥエンティワン)
東京大学の科学的に赤ちゃんの反応を研究しているグループが出したもの。贈呈絵本の5冊にいれようとは思わないが、お薦め絵本リストに入れてもいいのではないかと考えている。
- (委員) ★「ととけっこうよがあけた」
- ★「ちびすけどっこい」
- ★「せんべせんべやけた」
わらべうたを復興させたいという思いがあり持ってきた。ましませつこさんの柔らかい絵であり、また、沢山の色が使われている。
- (委員) (わらべうたの絵本には)楽譜は付いているのか。
- (委員) 後ろに楽譜がついている。また、今は動画サイトで検索すると出てくる。読み聞かせをする際の勉強をしていただくための参考にはなるが、お母さん方にはお子さんには動画ではなく生の声でやってもらうようお願いしている。
- (委員) 保健センターで実際に読み聞かせをやっているが、楽譜は読めないし、新

しいわらべうたは知らない。

(委員) どのような形でやってもよい。わらべうたはどうしても声が低くなってしまいがちだが、少し高い声で歌ってあげると赤ちゃんの耳によく届く。あまり上手に歌いすぎて母たちのハードルを上げてしまうよりは、生の声が一番素敵だということを伝えられればよいと思う。

(委員) ★「ぼんちんぱん」

0～1歳の部屋で子ども達が大好きな絵本であり、先生たちのお薦め。最初にもらった絵本を3歳まで楽しめるという点も良い。

★「もいもい」

子ども達に読み聞かせたところ、この目のような丸を見る。また、もいもいという言葉が心地良い言葉だと聞いた。

★「どんどこももんちゃん」(作・絵：とよたかずひこ 童心社)

0～1歳クラスで大人気の絵本である。どんどこどんどこという言葉の響きが良いのか、絵が良いのか、色味が良いのかは分からないが子ども達が大好きな絵本である。

(委員長) では、事務局(図書館、保育園)から参考絵本の紹介をお願いしたい。

(事務局) ★「くつつあるけ」(作：林明子 福音館書店)

★「ぬにゅ～ぼんぼん」(作：ちかつたけお 角川書店)

(事務局) ★「ぞうさん」(詩：まどみちお 絵：にしまきかやこ こぐま社)

★「まるさんかくぞう」(作：及川賢治、竹内繭子 文溪堂)

(事務局) ★「ぺんぎんたいそう」(作：齋藤慎 福音館書店)

★「パンダ なりきりたいそう」(作：いりやまさとし 講談社)

★「パンダ おやこたいそう」(作：いりやまさとし 講談社)

★「まるてん いろてん」(作：中辻悦子 福音館書店)

★「ぎゅぎゅぎゅ——」(作・絵：駒形克己 角川書店)

★「ねこのピートだいすきなしろいくつ」(作：エリック・リトウィン

絵：ジェームス・ディーン 訳：大友剛 文字画：長谷川義史 ひさかたチャイルド)

(委員長) 委員の方々には沢山の絵本をお持ちいただいたが、入れられるのは1冊か2冊である。前半のお話から、「がたんごとんがたんごとん」「くだもの」は残すべきと5分の3の票があったので残し、「じゃあじゃあびりびり」を別の本に変更するということがか。

(委員) 「じゃあじゃあびりびり」は復活したばかりであり、(配布数が)1位であった絵本である。

(委員) どの本も良い本なので、落とすという議論は難しい。どうしても入れたい絵本があるのであれば、どれかと変更するということにしてはどうか。

- (委員長) 「もいもい」は(900円を超えているため)値段が合わない。(贈呈絵本に入りたい)候補として、「ぼんちんぱん」は3人から推薦がされている。
- (委員) あと(の候補)は、わらべうたの絵本ではないだろうか。
- (委員長) わらべうた絵本はいくつか上がったが、どの本がよいか。
- (委員) お母さん方が馴染めるような絵本でないかとも思える。
- (委員) おはようのご挨拶という形の「ととけっこうよがあけた」も良いと思う。「ちびすけどっこい」「せんべせんべやけた」はストーリー性もあり、遊びに入っていける絵本である。親子で触れ合うことができる。
- (委員) 「ととけっこうよがあけた」も捨てがたいが、「ちびすけどっこい」「せんべせんべやけた」はメロディーに囚われずリズムに乗って言える点でこちらが良いのではないかと思う。
- (委員) 「ちびすけどっこい」はお母さんが子どもたちと遊べるかなと思う。わらべうたは年代によっては古いものだという印象があるが、今のお母さんたちは割と新しいものと捉えている感じがする。
- (委員長) 「ぼんちんぱん」は福音館書店で800円(税抜)、「ちびすけどっこい」はこぐま社で900円(税抜)である。
- (委員) 他意は無いが、贈呈絵本の出版社が重なってしまう。
- (委員) 現在の贈呈絵本はどれも歴史のある絵本である。「ぼんちんぱん」にしてもわらべうたの絵本にしても生まれてから数年の(新しい)絵本。それだけでもインパクトがある。長野市の子ども達に敢えて新しい本を提供するという事を明確にすれば、出版社が重なったとしても問題は無いのではないか。
- (委員長) 先程、どの絵本を変えるかというところで「じゃあじゃあびりびり」を変更することは確定した。その代りに入るものとして、「ぼんちんぱん」と「ちびすけどっこい」のどちらかに1回手を挙げていただきたい。
- ・「ぼんちんぱん」…4人
 - ・「ちびすけどっこい」…1人
- (委員長) では、「ぼんちんぱん」を贈呈絵本に入れるということによろしいか。
(一同賛成)
- (委員) 次のお薦め絵本リストには、わらべうたの絵本「ちびすけどっこい」を入れて欲しいと思う。
- (委員) この場で上がった絵本を参考にして、お薦め絵本リストを見直してもらいたいと思う。
- (委員長) 審議の結果、現在の贈呈絵本5冊のうち、4冊を残して1冊を変更することとなった。「おひぎで絵本」事業で贈呈する絵本は、「いないいないばあ」「がたんごとんがたんごとん」「くだもの」「ぼんちんぱん」に決定する。

(3) その他

- ・お薦め絵本リストの作成について
- ・絵本の切替日を12月1日から11月1日へ変更することについて

以上